

連携について

正助ふるさと村、地元コミュニティ、近隣の大学（学生ボランティア）などとも連携し、その力を各種体験活動に活かしていきます。

元気が回復してきたら、学校復帰を目指す「エール」への通室を勧める場合もあります（本人の意向によります）。施設の併用はできませんが、どちらがいいのか迷っている場合は、エールを体験することができます。

通所の方法

- 保護者による送迎（もやいの家の駐車場利用）
- コミュニティバス（松丸・土師上バス停下車）
- 西鉄バス（日赤看護大学バス停下車）
- 自転車（小学生は不可）、徒歩

利用までのながれ

在籍校やスクールソーシャルワーカーなどと相談して、見学・面談を申し込んでください。

1. 面談後、1～2週間程度利用体験します。
2. 正式利用する場合は、「利用申込書」をホープに提出してください。

福岡教育大学の学生ボランティアが活躍

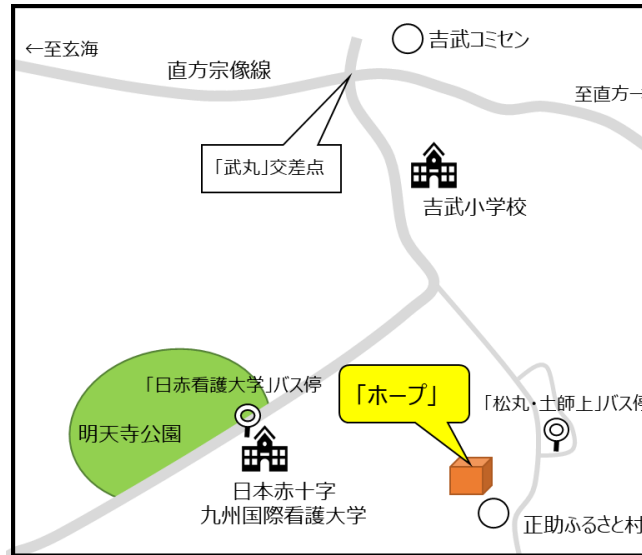
- ・学習支援
- ・体験活動支援

（ホープでの体験活動や学生企画による体験活動があります）



支援体制

- ・所長 1名
- ・支援スタッフ 3名



子どもの自立サポートセンター ホープ

〒811-4152

福岡県宗像市武丸 199

（正助ふるさと村内）

TEL 0940-39-3102

FAX 0940-39-3444

◇電話相談：平日 9:00～17:00

令和6年4月版

宗像市

子どもの自立サポートセンター

ホープ

（正助ふるさと村内）



宗像市教育委員会

子ども支援課

「ホープ」は

不登校特にひきこもり傾向にある子どもたちが家から出て安心して心身を休め、エネルギーを蓄えていく安心して過ごせる居場所です。「毎日は無理だけど時々なら行けそうだ。」「長い時間はきつい。」「ゆっくり一人で過ごしたい。」「集団活動が苦手だ。」といった子どもたちに向いています。一人ひとりに応じた支援、大学生ボランティアとの交流、自然環境を生かした体験活動などを通して、自己肯定感や自立性・社会性を育くみます。

支援の特徴

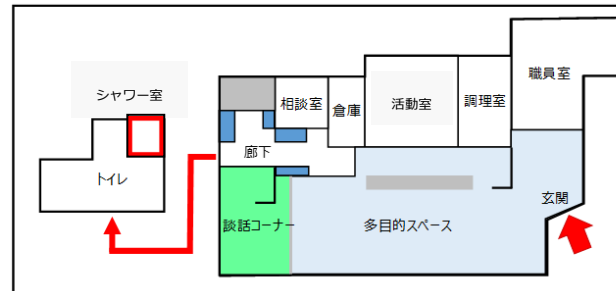
- 安心できる居場所で、一人ひとりに応じた支援をします。
- 自分の興味ある活動をします（自分で選び、自分で決めます）。
- 大学生ボランティアとの交流などができます。
- 豊かな自然環境を生かした体験活動（農業体験など）を行います。
- 子どもや保護者の相談支援を行います。

利用の要件

- ◇宗像市立小・中学校及び義務教育学校に在籍している児童生徒もしくは宗像市在住の小中学生
- ◇スタッフの指示を理解し行動できる。

主な施設・設備

- リラックスして過ごせるコーナー（談話、読書）
- いろいろな活動ができる多目的スペース
- 農業体験ができる畑（センター横）
- 四季折々の植物に触れ合える自然環境
- Wi-Fi環境（学習用タブレット貸出）



※トイレは「ホープ」の利用者専用です。

様々な体験活動

☆自然体験活動

（農業、栽培、花壇づくり
作物販売、生きものとのふれ
あい、飼育など）



※正助ふるさと村の体験イベントへの参加

☆創作活動

（絵画、イラスト・漫画工作、調理など）

☆コミュニケーション活動

（レクリエーション、カードゲーム、
ボードゲームなど）

☆スポーツ活動

（卓球、バドミントン、
縄跳びなど）

☆外部との連携活動

（大学探検、ボランティア活動など）



一日の流れ

◇ 午前 9:15~12:00	自己選択活動 談話、学習、創作、運動、 レクリエーション、ゲーム、 体験活動など
◇ 昼休み 12:00~13:00	昼食など
◇ 午後 13:00~15:30	自己選択活動 談話、学習、創作、運動、 レクリエーション、ゲーム、 体験活動など
15:30~16:00	清掃活動、帰りの準備

※利用する日や時間は調整します。

持ってくるもの 服装

- ・学生服・私服どちらでもかまいませんが、身だしなみは原則在籍校のルールに準じます。
- ・その日の活動や学習などに必要なもの
- ・水筒、運動靴（屋外での活動あり）
- ・弁当（午前午後連続して利用する場合）

出席の取り扱いや利用料など

- ・原則、在籍校の出席扱いになります。出席扱いを希望しない場合はお申し出ください。
- ・利用料は無料です。ただし、体験活動等では実費が必要となる場合があります。
- ・活動中や通所中の傷病は在籍校で加入している日本スポーツ振興センターの災害給付の規定に基づき対応します。